



日本ではより複雑に、ロシアではより単純に、が好まれます。

日本で商品を購入すると、それを箱に入れ、隅に緩衝材をつめ、ふたをしたら見た目も美しく薄紙で包み、数種類から選んだりポンをかけて、さらにどこに持ち歩いても恥ずかしくないような持ち手つきの丈夫な袋に入れ、雨が降っていたら雨除けカバーまでつけて手渡してくれますが、ロシアでは、まだまだ商品をそのまま渡されることもあります。

同じ人種だからこそ、中でも特に顔立ちの整っている人が主役を務め、ちょっと太っていたり、眼鏡をかけていたり、個性的なひげをはやしていたり……と個性を演出する脇役の中で、もっとも犯人らしくない人物が犯人である日本のサスペンス・ドラマに比べ、色とりどりの髪に色とりどりの瞳で、ともするとどの人が主役かわからな

い役者の中で、いかにも悪人らしく振る舞う人が犯人なのが、ロシアのサスペンス・ドラマです。

「エリンギとしめじとマイタケの茸ご飯」

「本日の魚料理…舌平目のムニエル」なんて書かれている日本のメニューに比べて、ロシアのメニューではシンプルに「キノコのマリネ」「魚のスープ」と書かれています。注文してみると名前も知らない種類豊富な茸が入っていますし、同じ店でも毎回スープに使われている魚が違っていたりしますが、茸は茸だし、魚は魚なのです。

より大きく見えるよう、より広がりを感じさせるよう、より多くの種類を持たせて演出する日本に比べ、大きすぎて広すぎて多すぎるロシアでは、より単純に、これがポイントかもしれません。

## 単純に

どこに住んで誰と接していても、ビックリする部分は見えてくるものです。これまでの自分の価値観と違えば違うほど、そのビックリは、受け入れ難く感じられるかもしれません。けれどもロシアには、ビックリの数だけ発見があり、ビックリの数だけチャンスが広がっています。類は友を呼ぶ、という言葉がありますが、もしあなたが素敵なロシア人に出会え、ロシアの面白さを見つけられたなら、それはあなたが素敵な日本人で、日本の面白さを知っている証拠です。お金では買えないビックリに出会い、一つでも多くのビックリを見つけながら生活するような、そんな毎日していきたいものです。



## いちのへ友里

【いちのへ・ゆり】ノバロフスク地方と姉妹都市関係にある青森県に生まれ、直行便就航の年に東京外国語大学ロシア科へ進学。在学中から芸能活動を始め、卒業後ミュージカル「赤毛のアン」で主演デビュー。以降TVや映画、舞台などでタレントとして活動。また同時に新聞やインターネット、NHK テキスト等でロシアをテーマにしたエッセーの執筆、外務省やロシア大使館での司会など、ロシアと日本の間でさまざまな活動を展開。2007年6月ロシア国営ラジオ「ロシアの声」入局。日本語課アナウンサーとして毎日のニュースや毎週水曜「スポーツの時間」を担当。「ロシアの声」<http://www.ruvr.ru/>(languageからJapaneseを選ぶと日本語でご覧いただけます)。33言語160カ国へ向けて、ラジオやインターネットで配信中。

います」と、嬉しいことも悲しいこともなるべく心の中に押し殺して体裁を保とうとしますが、ロシア人は「自分はどんなに幸せか、あるいは自分はどんなに不幸か」について、嬉しいことはより喜劇的に、悲しいことはより悲劇的に、言葉たつぷりに表現して相手に訴えかけようとします。

日本語では、少ない言葉の行間に、なるべく多くの想いを込めようとしますが、ロシア語では、豊かに韻を踏み、3倍くらい劇的な形容詞を並べて披露してくれます。「足が細い！髪が美しい！額のラインが綺麗！」なんて、ロシアの男性がほめ上手な秘訣は、もしかしらここにあるのかもしれませんが。